

## 第3回 石巻市行財政改革推進委員会 会議記録

日付：令和2年9月25日（木）

時間：13時30分～14時40分

場所：石巻市役所6階

議会第1・2委員会室

### 1 開会

### 2 委員長あいさつ

### 3 会議

進行は委員長が実施

#### (1) 行財政改革推進プラン2025の中間案について

資料1・資料1-1に基づき事務局から説明

#### 【質疑】

委員： 広報が弱いのではないかとということで、公民館に行った。公民館だよりを2か月に1度位出しているが、コロナの関係で現在回覧物を出さないということもあり、中々分かっていただけなかったかなど。今後は、公民館の方でそういうチラシを数多く出してもらうことを私の方からもお願いしてきた。

委員： 令和3年度からのデータになっているが、コロナウイルスの影響はどの程度加味した目標値か。50ページ、51ページでは額も載っている。少なからず学校関係、放課後児童クラブ、ごみ排出量とか、飲食店等もこのような状況で、これから令和3年にかけて、少なくとも年内はコロナウイルスの影響を加味したデータにしていかないと初年度の実現にならないのではないかと。その影響はどのように考えているか。

事務局： 社会情勢の変化ということと思うが、費用のかかる部分や税収の減の影響は考えられる。そういった部分はプランでの対応ということではなく、資料1の10ページにある財政収支見通し、市全体での財政の変動、収支のバランスの見通しの中で影響を入れていく形になる。それで財源がどれだけ不足するのか見えてくると思う。それに対して、このプランでは、どれだけその影響を軽減する、一助になるという対応になるかと思う。

委員： この場で会議がとり行われた後に、また変更になる可能性は十分に

あるということか。

事務局： コロナが影響して直接何かということはないかもしれないが、そういった大きな社会変動によって行財政改革の取組というものをまた新たに考えなくてはいけないということが、この5年の中で生じてくることが考えられる。そういった際は、また取組を作っていく、直していくという検討をしていく必要があるということで、その部分については16ページ4行目のまたというところから社会情勢の変化などにより新たな取組内容の追加を検討して参りますということで念頭にはある。

委員： 初年度から改革プランがこけることになることになると計画もまた練り直さなければいけないということが、今後一番懸念される。令和3年からであれば、その辺は十二分に踏まえて動かなければならない気がしたので意見した。

事務局： コロナウイルスの影響が見えない状況にあり、特に税収はかなり見えない。これを逆にわからない状況で大幅に減らせるか。基本的には今年度の所得分が来年度に影響するというので、来年度の方はさほど大きな影響はすぐにはでないという形でその次の年あたりに出るかなという感じはしている。

税の軽減ということで固定資産税の軽減が今後申請されるが、それについては全額国から補填されるということもあり、それについては交付金と税といった部分で行ったり来たりするので影響が出ない。

コロナ対策の歳出がどれ位かかるか、歳出の額が増える部分がどうしても出るので、今回の不足分がもっと不足するという状況になると、追加の対策をプラスアルファで打たなければならないということもある。その辺はまだ見えない部分なので、今後、コロナの状況を見ながらプラスしていくこともあり得る。

委員： 数字の見えないところがあるなと思いつつ、今回、初めて財政効果目標額を設定されたということで、これは素晴らしいと思う。目標を設定することで、それに対してどういう行動を起こしていくかということも考えられるし、達成できなかった理由が何なのか検証する材料にもなると思うので、こういった形でコロナの影響も踏まえながら後で振り返りをするための材料になるかなと感じた。

組織の活性化のところで13ページ基本目標の1で市民参画・協働の推進と行政サービスの充実ということで、方針のすぐ上のところに意欲と能力の向上を図る人材育成による組織の活性化が必要となっていますということで、私もその通りだなと思う。どちらかと言うと取組で意欲と能力のある職員を育てていくことが中心になっていると感じた。それも大事だと思うが、実際の取組のところでは出てくると思

うが、組織の活性化というのは、一人ひとりの能力の向上ももちろんそうだが、職員同士が協働していく仕組みが不可欠だと思うので、そういったところが実際の運用の中ででてくると良いなと思う。それが9ページともリンクするが、職員数の推移の現状の中で40代以上の職員の構成バランスに触れている。石巻市に限らずどこもそうだと思うが、それに対して職員数を適正化するというのは、見る人が見ると現状の問題と解決策が必ずしもリンクしていないと感じるところがある。組織の活性化というところで職員同士が協働していくような仕組みづくりが解決策になると思う。

委員： ホームページに載せる材料になるかどうか、財政効果額の表で数字が載っているが、一般の人が見て分かるように顕著なものなどはグラフ化してみたりすると分かるのではないか。表に数字が入っていると、数字があまり好きでない方は見なかったりして分かり難かったりすると思う。ホームページ上に出すことなどあれば工夫されたら良いのではないか。

委員： 24ページの提案件数だが、市全体で出てくる数であって、採用する数ではないということ。毎年2件で推移しているが、少ないような気がする。意欲と能力のある人材育成という点からみてもズレがあると感じる。

事務局： 職員提案制度は今でも要綱を定めて運用している。年中募集している期間になっているが、平成30年度と令和元年度の2か年は0だったということで、そういう中でもこういう制度を活用して組織の活性化を図っていかなければとまずは2件ほどでも出てくれば良いかなと記載したが、もう少し検討させていただきたい。

委員： 公的機関の数値、公会計的なものは多くの地方公共団体で出されている。そういった勉強、教育は難しい。かなり全国的に広がってきているので数値的な視点から見られる人材の育成をするためにも、そういった職員の積極的な意見が出てくれば、より行財政ということに対する関心が出てくるのではないか。

委員： 基本目標3の48ページの小中学校の統廃合で、令和3年度で1校、令和5年度で1校と、合計で4つ学校が統廃合されると解釈して大丈夫か。

事務局： 令和3年度については、具体があり、石中と門中の統合となる。5、6、7年度については、どこの学校ということではないということで教育委員会からは、説明を受けている。一つずつ、この辺あたりから統合して行ければなということで、統廃合の計画は続いていくので、この辺は目標になっているので、必ずしもこうなるというわけではないが方針としてはこのようにカウントしている。

(2) その他

【質疑】なし

4 その他

次回日程について

次回会議の開催日程については別途事務局で調整する。

会議傍聴者	
一般市民：0人	新聞記者：0人